関西医科大学
社会貢献＆SDGs

2026
（2024.4～2025.3）

Kansai Medical University Social Contribution & SDGs



関西医科大学の取り組み一覧



		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
01	**国際交流・学術連携関係**																	
P.5	トリノ工科大学（イタリア）とのダブルディグリー協定書調印式			●	●				●	●	●	●					●	●
P.5	サン・カミッロIRCCS病院およびヴェネツィア・カフォスカリ大学の代表団が本学訪問			●	●				●	●	●	●					●	●
P.6	イタリア・日本共同国際シンポジウム開催			●	●			●		●	●	●					●	●
P.6	日伊国際シンポジウム開催			●	●	●			●	●	●						●	●
P.6	日伊共同シンポジウムで再生医療等研究の発展を推進			●	●					●	●						●	●
P.7	CRUI訪問団・イタリア万博政府代表の訪問、ヴェネツィア・カフォスカリ大学との協定締結			●	●	●			●	●	●	●	●	●			●	●
P.7	駐日イタリア大使との面会を通じた日伊連携の深化			●	●					●	●						●	●
P.8	駐日セネガル大使との面会を通じた国際医療人材育成への取り組み			●	●				●	●	●						●	●
P.8	タイとの医療連携を通じた国際医療ネットワークの構築			●	●					●	●						●	●
P.8	在大阪インドネシア共和国総領事ら視察	●		●	●				●	●	●	●					●	●
P.9	国際大学院留学生受け入れ	●		●	●					●	●						●	●
P.9	国外臨床実習成果報告会開催			●	●	●			●	●							●	●
P.9	全国医学部国際交流協議会で医学教育の国際化を共有			●	●					●	●						●	●
P.9	看護学部短期留学報告会開催			●	●	●					●							●
02	**地域連携・協定関係**																	
P.10	大阪府知事から新型コロナウイルス感染症対応に対する感謝状贈呈			●			●			●		●	●				●	●
P.10	常翔啓光学園中学校・高等学校との高大連携事業実施			●	●	●			●		●	●					●	●
P.11	附属病院北河内がんゲノムセミナー開催			●	●					●	●	●						●
P.11	第7回関西医科大学連携病院の会開催			●	●				●	●	●	●					●	●
P.12	防火・防災訓練実施			●	●							●		●				●
P.12	大学・附属病院災害訓練等実施			●	●		●					●		●				●
P.13	附属病院令和6年度 近畿地方DMATブロック訓練 総合医療センター災害訓練実施			●	●		●					●		●				●
P.13	香里病院消防・災害合同訓練実施			●	●		●					●		●				●
03	**高齢者・認知症支援**																	
P.14	「高齢者こころとからだの健康チェック2024」実施			●	●				●		●	●					●	●
P.14	「住みやすい街プロジェクト第一弾フレイル予防サポート養成講座」開催			●	●	●			●	●	●	●					●	●
04	**救急医療・医療体制強化**																	
P.15	病院新部門開設		●	●	●				●	●	●	●	●				●	●
P.15	附属病院外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）認定	●		●	●	●				●	●	●					●	●
P.16	香里病院病院機能評価認定	●		●						●	●	●					●	●
P.16	附属病院輸血・細胞療法部山岡技師長、医療安全管理部川瀬科長が文部科学大臣表彰を受賞			●					●									

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
05	**教育・人材育成（大学院・専門教育）**																	
P.17	奨学金（学部・大学院）	●		●	●						●						●	
P.17	医工学センター開設			●	●					●			●					●
P.17	令和6年度第1・2回大学院企画セミナー			●	●					●	●						●	
P.18	第8期関医・看護師リカレントスクール開講			●	●	●			●		●						●	●
P.18	関医・看護師リカレントスクール修了生の集い開催			●	●	●			●			●					●	●
P.19	看護学部冬期インターンシップ			●	●	●			●									
P.19	「看護学教育評価」適合と認定			●	●	●			●		●	●	●				●	●
06	**子ども・次世代育成**																	
P.20	夏休み子ども企画「関西医科大学で遊びを体験」			●	●	●			●		●	●					●	●
P.20	医学部「子ども大学探検隊」実施	●		●	●	●			●		●	●					●	●
P.21	附属病院沖縄美ら海水族館遠隔授業開催			●	●						●	●			●	●	●	●
P.21	総合医療センター第18回 滝井セミナー「～子どもを理解するために～」開催		●	●	●					●	●						●	●
P.22	小児がん患者向けメタバースアプリ開発クラウドファンディング実施記者会見実施		●	●	●				●	●	●	●	●				●	●
P.22	附属病院・総合医療センターがん教育講演会開催		●	●	●					●	●	●					●	●
07	**医療体験・キャリア教育**																	
P.23	附属病院「1日看護師体験」開催			●	●	●			●		●	●						●
P.23	総合医療センター「ふれあい看護体験」・「1日看護師体験」開催			●	●	●			●		●	●						●
08	**市民向け健康啓発・公開講座**																	
P.24	附属病院市民公開講座開催（2回）			●	●					●	●	●					●	●
P.24	附属病院アレルギーセンター府民公開講座開催			●	●					●	●	●					●	●
P.25	総合医療センター第25回・26回市民健康講座開催			●	●							●					●	●
P.25	総合医療センター糖尿病デーフェスタ2024開催		●	●	●					●								●
P.26	総合医療センターミニ市民健康講座開催			●	●							●					●	●
P.26	香里病院市民公開講座開催（2回）			●	●							●					●	●
P.26	ひらかた市民大学開催			●	●							●					●	●
09	**がん医療・検診**																	
P.27	附属病院国際がん新薬開発センター・新薬開発科開設		●	●	●					●	●	●	●				●	●
P.27	香里病院日曜乳がん検診（ピンクリボン）実施			●	●	●				●								●
P.27	くずは駅中健康・健診センター健診・ドックリニューアル		●	●						●	●	●	●				●	●
10	**医療の質・安全向上**																	
P.28	第21回医療安全大会開催			●	●						●	●					●	●
P.28	医療ニーズ発表会開催			●					●	●			●				●	●
P.28	第8回学術祭開催			●	●				●	●	●							●
P.28	附属病院Newsweek誌「World's Best Specialized Hospitals 2025」に整形外科分野でランクイン			●	●				●	●	●	●					●	●
11	**女性医師支援・ジェンダー平等**																	
P.29	医師キャリア支援のための交流会開催			●	●	●			●		●						●	●
P.29	子育て医師キャリア支援講演会開催			●	●	●			●		●						●	●
P.29	マタニティウェアレンタルサービス開始		●	●	●	●			●	●							●	●
P.30	女性医師奨励賞受賞者による講義実施			●	●	●			●		●	●					●	●
P.30	第4回女性医師奨励賞（アプリコット賞）及び第2回女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）表彰式			●	●	●			●									
12	**環境配慮**																	
P.30	令和6年度業務改善コンテスト開催					●			●		●		●				●	●

創立100周年にむけて、よりいっそうの社会貢献推進を

副学長（社会貢献担当）
社会連携・社会貢献推進委員会委員長
木下 秀文



近年、本学にとって、社会貢献、地域貢献あるいは社会連携活動（以下、「社会貢献等活動」と言います。）がますます重要性を増しています。

本学はこれまでも、建学の精神である「慈仁心鏡」を礎に、各部署・各部門がそれぞれ教育・研究・診療あるいは市民向けの公開講座などを通じて、地域貢献、自治体との連携、初中等教育機関との連携、国際貢献など幅広く社会貢献等活動を行ってまいりました。

また、日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価においても、近年、世界医学教育連盟（WFME）の国際基準との整合性を図る中で、医学教育における社会貢献や地域貢献活動の実効性、継続性が重視されてきています。加えて、英国Times Higher Educationが、世界中の大学の社会貢献度を評価する指標として令和元年（2019年）に新設した「THEインパクトランキング」においても、大学の社会的責任とSDGsへの貢献度が評価軸として明確に設定され、大学がこうした活動に積極的に取り組むことを促しています。

このような課題に対応するため、本学は昨年7月に、医学部、看護学部、リハビリテーション学部、各附属病院および社会貢献・地域貢献活動に密接に関連する法人各部門の責任者による「社会連携・社会貢献推進委員会」を立ち上げ、同年12月には「社会連携・社会貢献推進基本方針」を制定し本学HPでも公表しています。

まずは、2年後の令和10年（2028年）の創立100周年に向け、本学が何を目指して、社会、地域、世界に対してどんな社会貢献等活動を進めていくかを明確に示します。そして、教職員の皆さんがこれに共感し、共に行動するモチベーションをはぐくむような活動を行っていきたいと考えています。各部署・各部門の有機的で緊密な横のつながりを重視し、関連性を持たせたうえで中期計画、年度計画を立てていきます。年度末にはそれぞれの取組みを評価しPDCAサイクルをしっかり回すことで、私立医科大学ナンバーワンを目指して、本学の社会貢献等活動の質の向上を図っていきます。

今後とも本学の社会貢献等活動に対するご支援をお願い申し上げます。

01 国際交流・学術連携関係

トリノ工科大学（イタリア）との ダブルディグリー協定書調印式

5月5日（日・祝）から12日（日）にかけて、木梨達雄学長、国際化推進センター友田幸一センター長、医工学センタージュセッペ・ペッツォッティセンター長ら本学関係者がイタリアを訪問し、トリノ工科大学をはじめとする現地機関との学術交流が行われました。

5月6日（月）現地時間10時30分からCastello del Valentino（イタリア・トリノ）でトリノ工科大学（イタリア）と、本学との間でダブルディグリー協定書の調印式が行われました。

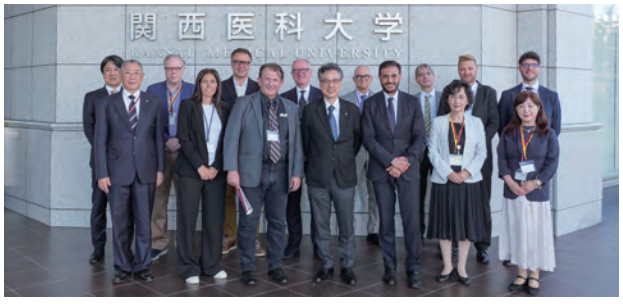
トリノ工科大学と本学は令和5年4月から学術交流協定を締結しており、今回のダブルディグリーのプログラムは、博士課程の学生が在学中に1年程度、相手の大学に留学し研究を行った上で学位論文を執筆し、審査に合格した場合は両方の大学の学位が授与されるというものです。木梨達雄学長はトリノ工科大学Stefano Paolo Corgnati学長とともに現地で調印式に参加し、協定書にサインしました。また、翌日7日（火）には、両大学の共同研究に向けたラウンドテーブルが行われました。



サン・カミッロIRCCS病院および ヴェネツィア・カフォスカリ大学の代表団が本学訪問

10月8日（火）から10日（木）にかけて、ヴェネツィアに位置し先進的な神経リハビリテーションで名高いサン・カミッロIRCCS病院およびヴェネツィア・カフォスカリ大学の代表団が、バイオメディカルおよび神経リハビリテーション研究における革新的なアプローチに関する共同研究の協議のために本学を訪問しました。

本学の学術および臨床活動の概要、サン・カミッロIRCCS病院の神経リハビリテーションおよびバイオメディスンに関する最先端の研究、ヴェネツィア・カフォスカリ大学の分子科学・ナノシステム学科の学術分野の概要が発表されたほか、多数の講演が実施されました。出席者は、コラボレーションのテーマ、ダブルディグリー・プログラム、基礎医学および臨床医学における学生交流など、さまざまなトピックについて詳細に議論し、MOU（Memorandum of Understanding）に基づく将来の取り組みの基盤を築きました。



01 国際交流・学術連携関係

イタリア・日本共同国際シンポジウム開催

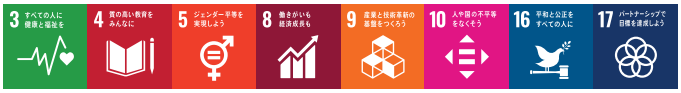


6月21日（金）、枚方キャンパス関医タワーおよび医学部棟加多乃講堂において、イタリア・日本共同国際シンポジウムが開催されました。在大阪イタリア総領事マルコ・プレンチペ氏と本学が主催し、トリノ工科大学との連携のもと、大阪・関西万博2025を見据え、「人類と医療のためのロボティクス」をテーマとして実施。国内外から総勢150名以上が参加し、ヘルスケアの分野におけるロボット工学の広がりとその多大な可能性について日伊の知見と最新の研究を共有しました。

当日は、国際化推進センター友田幸一センター長の歓迎挨拶により、関係企業によるモーニングセッションが開幕。両大学学長らによる挨拶、基調講演に続き、「ヘルスケア、リハビリテーション、障がい、高齢社会のためのロボット技術」と「人類と医療分野へのサービスロボティクスの挑戦的応用」の2件をテーマにシンポジウムが行われ、ヘルスケアやロボット工学の分野における最新の知見が紹介されました。

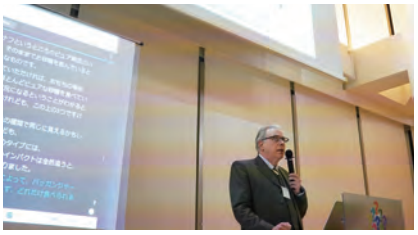


日伊国際シンポジウム開催



11月27日（水）13時からクエスチョンビルディング（京都市中京区）において、日伊国際シンポジウム「スマートフードと栄養補助食品―フードテクノロジー新時代への一歩―」が開催されました。世界長寿ランキングで上位に入る両国が、長寿、女性の健康、ナチュラルフードをテーマに栄養補助食品の可能性を議論するものです。

開会挨拶では、本学医工学センタージュセッペ・ペッツォッティセンター長・学長特命教授が総合司会を務め、在大阪イタリア総領事マルコ・プレンチペ氏、イタリア万博政府代表大使マリオ・バッターニ氏に加え、本学国際化推進センター友田幸一センター長も登壇。その後、講演が多数行われ、両国のフードテクノロジーの発展を願いました。



日伊共同シンポジウムで再生医療等研究の発展を推進



12月10日（火）、枚方キャンパス医学部棟において「Bridging Japan and Italy: Innovations in Regenerative Medicine, Neurorehabilitation, Inflammation, and Cancer」をテーマとした日伊共同国際シンポジウムが開催されました。これは、本学とイタリアの大学・研究機関とが連携し開催したもので、本学のiPS細胞を用いた再生医療をはじめ、神経リハビリテーションや炎症・がん研究など、両国の最先端研究成果が紹介され、活発な意見交換が行われました。また、在大阪イタリア総領事館の協力のもと、研究施設の見学や研究者間の交流を通じて、将来の共同研究や次世代研究者の育成に向けた連携を一層深化させました。国境を越えた学術ネットワークの構築は、革新的な医療技術の創出と世界共通の健康課題の解決に向けた国際協力を推進し、持続可能な医療の実現に貢献する取り組みとなっています。



01 国際交流・学術連携関係

CRUI訪問団・イタリア万博政府代表の訪問、ヴェネツィア・カフォスカリ大学との協定締結



9月6日（金）、イタリア国立大学学長会議 Conference of Italian University Rectors（CRUI）の訪問団およびイタリア万博政府代表大使マリオ・バッターニ氏らが本学を視察に訪れました。CRUIはイタリア国立大学の学長からなる組織で1963年に設立され、イタリアの大学と社会に関する様々な事業を行っています。バッターニ氏らは本学がイタリアパビリオン展示で協力関係にあることから在大阪イタリア総領事マルコ・プレンチペ氏とともに視察に同行されました。

今回、イタリアと日本の連携促進のために来日し、成長が著しい本学の教育・研究・診療を視察することになりました。本学の紹介、CRUIおよびイタリア各大学、イタリアパビリオンの説明のあと、シミュレーションセンター、光免疫医学研究所、綜合研究施設などの学内施設および附属病院外来、がんセンター・緩和ケアセンター・リハビリテーションセンターを見学後、関医タワーにて歓迎食事会を催しました。

また、この訪問にあわせて、本学とヴェネツィア・カフォスカリ大学の学際的学術連携に関する包括協定の調印式を行いました。ヴェネツィア・カフォスカリ大学はトリノ工科大学についで2件目のイタリア協定校となりました。



駐日イタリア大使との面会を通じた日伊連携の深化



6月7日（金）、駐日イタリア大使ジャンルイジ・ベネデッティ氏との面会が駐日イタリア大使館（東京都港区）において行われました。本学からは国際化推進センター友田幸一センター長、医工学センタージュセッペ・ペッツォッティセンター長・学長特命教授が出席し、本学とイタリアの大学・研究機関との連携について意見が交わされました。大学間交流にとどまらず、外交機関との連携を通じて、研究者・学生の国際的な往来や共同研究の発展を支える基盤を強化する機会となりました。

国際的なパートナーシップの構築を通じて、医学・医療分野における知見の共有と社会課題の解決に貢献していきます。

01 国際交流・学術連携関係

駐日セネガル大使との面会を通じた国際医療人材育成への取り組み



6月7日（金）、駐日セネガル大使ジャン・アントワーヌ・デュフ氏との面会が駐日セネガル大使公邸（東京都）において行われました。本学からは国際化推進センター友田幸一センター長が出席し、本学とセネガルとの教育・医療分野における連携について意見が交わされました。本学では、これまでもセネガルの大学・医療機関との交流を通じて、国際的な医学教育や研究人材の育成に取り組んできました。今回の面会では、将来的な学生・研究者交流や医療分野での協力の可能性について話し合われ、アフリカ地域との持続的なパートナーシップを深める機会となりました。国や地域を越えた人材育成と知識の共有は、世界の保健医療の発展と健康格差の解消に寄与する重要な取り組みです。

タイとの医療連携を通じた国際医療ネットワークの構築



9月24日（火）、タイ・バンコクのサミティベート病院の代表団が本学を訪問し、附属病院の視察や意見交換が行われました。同院は東南アジアを代表する国際病院で、多くの日本人患者さんを受け入れている医療機関です。今回の訪問では、タイからの患者さん受け入れや光免疫療法をはじめとする高度医療分野での連携について協議が行われ、今後の協力体制の構築に向けた理解を深めました。本学卒業生（尾崎岳先生、67期生）が橋渡し役となり実現した今回の交流は、国際的に活躍する卒業生とのネットワークを活かした新たな医療連携の可能性を示す機会となりました。

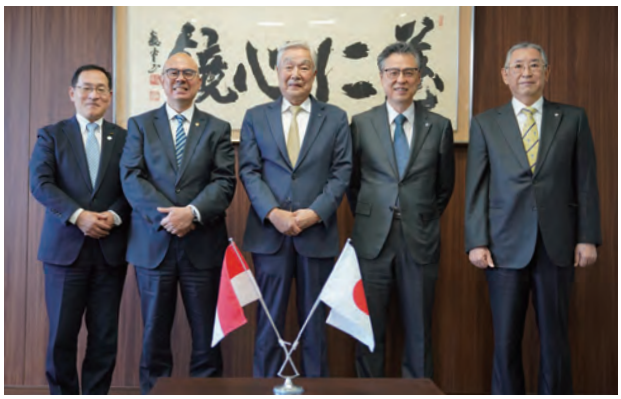




在大阪インドネシア共和国総領事ら視察



11月7日（木）、在大阪インドネシア共和国総領事のジョン・チャヤント・ブスタミ氏、枚方市の清水秀都副市長らが本学を視察に訪れました。一行は、山下敏夫理事長、木梨達雄学長、国際化推進センター友田幸一センター長と会談。その後、本学と附属病院の概要が紹介され、両国の研究や医療について意見を交換した後には、留学中の大学院生が在籍する医学部微生物学講座の研究室、同博士研究員が在籍する光免疫医学研究所など学内を見学。それぞれの研究内容について熱心に質問する場面もあり、関心の高さが感じられました。



01 国際交流・学術連携関係

国際大学院留学生受け入れ

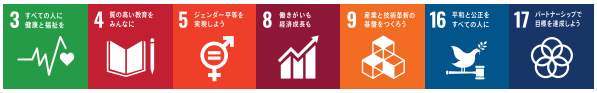


10月11日（金）17時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において「令和6年度国際大学院3期生入学式」が挙行されました。

この国際大学院は、アジア・アフリカ・東欧各国などの協定大学から推薦された優秀な留学生を受け入れ、日本と関係国間の医学・医療に貢献できるリーダーを養成することを目的としています。今回、5名の入学をむかえ、各新入生がこれからの日本での生活への期待と研究活動への意気込みを述べました。



国外臨床実習成果報告会開催



7月4日（木）17時15分から、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、国外臨床実習成果報告会が開催され、165名が参加しました。

木梨達雄学長による開会挨拶の後、国際化推進センター友田幸一センター長が「舞台は世界に」と題し、これまでの本学卒業生の海外での活躍を紹介。続いて、ドイツ、リトアニア、スコットランド、マレーシア、アメリカ、カナダなど様々な国で臨床実習を体験した6学年生たちが、現地で体験した実習や学んだこと、体感した文化の違い、余暇の過ごし方などについて、英語で報告し、「留学に参加したことで貴重な学びが得られた」「是非後輩の学生にも留学を勧めたい」などと語りました。



全国医学部国際交流協議会で医学教育の国際化を共有



7月19日（金）、第15回全国医学部国際交流協議会がコラッセふくしま（福島県福島市）において開催され、国際化推進センター友田幸一センター長ら本学関係者が参加しました。全国の医学部における国際交流や海外臨床実習、留学生支援、国際的な医学教育のあり方について情報共有が行われました。本協議会は、医学部の国際化を推進する大学関係者が集まり、各大学の取り組みや課題を共有する場です。海外大学との交流や学生派遣・受け入れを円滑に進めるためには、大学間のネットワークと実務的な情報交換が欠かせません。本学においても、協議会で得た知見を活かし、学生が国際的な視野を持って学ぶ機会の充実を図るとともに、将来の医療を支えるグローバル人材の育成に取り組んでいきます。

看護学部短期留学報告会開催



看護学部では令和7年3月から、アメリカ合衆国ミネソタ州立大学マンケート校での2週間の留学プログラムをスタートしました。初めてとなる今回は選抜を通過した10名の希望者が参加しました。シミュレーション演習をはじめとする看護学部の授業や、ディスカッション、メイヨークリニックの見学などを通し、異文化における看護について視野を広げる機会になります。また、ホストファミリーや現地の学生との交流により語学力を磨くことができます。

令和7年4月10日（木）14時50分からは、枚方キャンパス看護学部棟2階講義室1において、短期留学に参加した学生らによる報告会が開催されました。学生からは、短期留学中の充実した日々の生活だけでなく、アメリカ合衆国での看護学教育の実際と、現地で学んだからこそ気づくことができた日本の看護の魅力など、多彩な学びが報告されました。

02 地域連携・協定関係

大阪府知事から
新型コロナウイルス感染症対応に対する感謝状贈呈



6月、新型コロナウイルス感染症対応の最前線で医療の提供に尽力した医療機関に対し、大阪府吉村洋文知事から感謝状が贈呈されました。本学では附属病院、総合医療センター、香里病院、くずは病院にそれぞれ感謝状が贈られました。

常翔啓光学園中学校・高等学校との
高大連携事業実施



看護学部、リハビリテーション学部は令和5年度から常翔啓光学園中学校・高等学校との高大連携事業を推進し、中学生・高校生のキャリア形成を応援しています。

8月3日（土）9時30分から、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟において体験授業が実施され、同高等学校の生徒9名が参加しました。生徒たちはリハビリテーションについて学んだ後に、理学療法学科ブースでは3次元動作解析と筋力・筋電図測定を、作業療法学科ブースでは手の装具作製と高齢者擬似体験を実施しました。

12月25日（水）9時30分からは、枚方キャンパス看護学部棟において体験授業が実施され、同中学校の生徒47名が参加しました。生徒たちは血圧測定やシミュレータを使って心音と呼吸音の聴診をしたり、妊婦を疑似体験したりしました。



02 地域連携・協定関係

附属病院北河内がんゲノムセミナー開催



7月19日（金）17時30分から附属病院13階講堂において、北河内がんゲノムセミナーが開催され、51名（会場22名、Web29名）が参加しました。呼吸器外科村川知弘教授が座長を務め、京都大学大学院医学研究科ゲノム医療学講座鳥嶋雅子特定助教が「ゲノム医療と遺伝カウンセリング」、続いてがんセンター金井雅史センター教授が「保険適用後5年が経過したがんゲノム医療の現状」と題してそれぞれ講演しました。



第7回 関西医科大学連携病院の会開催



11月2日（土）16時30分から、リーガロイヤルホテル（大阪市北区）「山楽の間」において、「第7回関西医科大学連携病院の会」が開催され、本学地域医療センター連携病院の理事長・病院長ら延べ399名が参加しました。

この日は地域医療センター木下秀文センター長（医学部腎泌尿器外科学講座教授）司会のもと、山下敏夫理事長の挨拶で開幕。第一部では一般社団法人大阪府私立病院協会・一般社団法人日本医療法人協会加納繁照会長が「2024年度診療報酬改定を踏まえた病院経営の現状と今後」と題して講演しました。各附属医療機関の近況報告の後、会場を移して第二部の懇親会がスタート。本学各講座の教授、各附属医療機関の診療科長や教員も出席し、出席者と盛んに情報を交換するなど、親交を深めました。



02 地域連携・協定関係

防火・防災訓練実施



6月19日（水）14時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室および医学部棟正面玄関前において、事務職員対象の防火・防災訓練が実施されました。参加者は、中会議室で防災・消防ガイダンスの映像資料を視聴した後、正面玄関前へ移動し、水消火器による消火訓練を実施。災害時の対応に対する意識を高めました。



大学・附属病院災害訓練等実施



10月19日（土）8時50分から、附属病院で第17回関西医科大学附属病院災害訓練が実施されました。今回の訓練は枚方市内で震度7の地震が発生したことを想定して実施され、搬送されてきた傷病者のトリアージや処置、傷病者家族らへの説明を実施しました。

同日9時からは、枚方キャンパス医学部棟および看護学部棟で医学部1学年、看護学部1、3、4年次の学生に対して避難訓練が実施されました。参加学生は、避難訓練・点呼および安否確認訓練に臨み、防災に関するガイダンスを受けました。

11月13日（水）13時15分からは、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟でも1年次の学生、教職員らが参加して防災・消防訓練が実施されました。



02 地域連携・協定関係

附属病院
令和6年度近畿地方DMATブロック訓練・総合医療センター災害訓練実施



11月8日（金）から11月9日（土）にかけて令和6年度近畿地方DMATブロック訓練が大阪府下全域で実施されました。今年度は大阪府が当番府県として行われ、災害拠点病院である本学附属病院に北河内中河内医療圏の活動拠点本部が設置されました。8日の14時に上町断層帯地震が発生、大規模停電・断水や多数の傷病者が発生した想定のもと府外のDMAT隊も参加し、本部立ち上げ訓練や衛星電話を使用した通信訓練、医療圏内の情報共有などが行われました。

また、総合医療センターにおいても同日ブロック訓練と連動して災害訓練が実施され、災害対策本部・トリアージなど各エリアの立ち上げ、傷病者受け入れや衛星インターネットのスターリンクを使用した通信訓練、南館からの重症者移送訓練が実施されました。



香里病院消防・災害合同訓練実施



11月30日（土）11時から香里病院では初となる災害訓練が実施されました。地震発生に伴って出火したとの想定で実施され、消火活動、エレベーター閉じ込め患者さんの救護と搬送、トリアージポストの運用、救急車搬送などの訓練が進行しました。

また、水消火器による訓練や、地下水浄化システムによって生成された地下水を用いたバケツリレーも行われ、災害に対する意識強化につながる訓練となりました。



03 高齢者・認知症支援

「高齢者こころとからだの健康チェック2024」実施



4月20日（土）・21日（日）の 2日間、リハビリテーション学部では、医学部衛生・公衆衛生学講座甲田勝康教授および附属病院健康科学センター木村穣センター長の協力のもと、地域住民を対象とした『高齢者こころとからだの健康チェック 2024』を実施しました。3回目となる今回、2日間で計142名が参加しました。

参加者は、握力や特定条件下での歩く速度など、自身の様々なデータを測定したり認知機能検査を受けたりした後、結果をもとにフィードバックを受けました。

また、今年もリハビリテーション学部生が多数スタッフとして参加し、参加者の誘導や測定、運営に携わりました。学生スタッフからは「普段なかなか話す機会のない高齢の方と話す機会があってよかった」などの声が聞かれました。



「住みやすい街プロジェクト第一弾フレイル予防サポート養成講座」開催



9月13日（金）、27日（金）10時から、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟2階ラーニングコモンズにおいて、「住みやすい街プロジェクト第一弾フレイル予防サポート養成講座」が開催されました。これは地域在住の高齢者を対象としており、「フレイル」やその予防について学ぶことで、自分自身でフレイル予防ができるようになることを目指した講座で、近隣の地域包括支援センターと共催で実施しています。

各回の講義と評価にはボランティアの学生スタッフも参加。笑顔を見せながら参加者に測定方法を説明したり、測定結果の解説をしたりする様子が見られました。



04 救急医療・医療体制強化

病院新部門開設

4月1日付で附属病院糖尿病センター、認知症予防センター、総合医療センターに総合診療科、感染症内科、MEセンター、認知症予防センター、香里病院に化学療法センターが開設されました。

診療科の枠を超え、専門的な医療チームを形成するセンター化を推進することで、医療体制のさらなる強化を目指しています。

7月1日には、附属病院に臨床腫瘍科が開設されました。同科ではがん薬物療法とがんゲノム医療を中心に、各診療科と連携して診療を行っています。

また、附属病院はがんゲノム医療連携病院の指定を受けており、がん遺伝子パネル検査の適応の判断、適切なパネルの選択と申込、結果の解釈、患者さんへの結果説明を臨床腫瘍科が担当しています。

令和7年2月には、香里病院に糖尿病センターが新設されました。糖尿病を有する患者は世界で増加の一途であり、さらに肥満症を合併した患者が国内でも増加しています。糖尿病センターでは、複数診療科が科を横断して連携し診療を行うことで、本領域の診療を強化していきます。

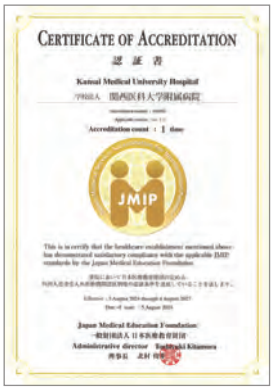
附属病院外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）認定

附属病院は、一般社団法人日本医療教育財団による外国人患者受入れ医療機関認証制度の審査を受審し、下記の通り認定を受けました。

・認定番号:AI0090
・認定日:令和6年8月5日
・バージョン:ver.2.1
・認定有効期限:令和6年8月5日～令和9年8月4日

外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）とは、一般財団法人日本医療教育財団が外国人患者の受入れ体制を中立・公平な見地から審査を行い、財団の定める認定基準に達しているかを評価するものです。

本認証制度は、外国人患者の円滑な受入れを推進する国の事業の一環として厚生労働省が平成23年度に実施した「外国人患者受入れ医療機関認証制度整備のための支援事業」を基盤に策定されたものです。


CERTIFICATE OF ACCREDITATION
認証書
Kansai Medical University Hospital
JMIP

04 救急医療・医療体制強化

香里病院病院機能評価認定

香里病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し、下記の通り認定を受けました。

病院機能評価とは、医療機関の機能を中立的な立場で評価を行う第三者機関として設立された公益財団法人日本医療機能評価機構が、中立的、科学的・専門的な見地から審査を行い、機構の定める認定基準に達しているかを評価するものです。

- 認定番号:認定第JC2533号
- 認定日:令和6年6月7日
- バージョン:機能種別版評価項目3rdG:Ver.3.0
- 認定期間:令和6年6月7日～令和11年6月6日
- 種別:一般病院1

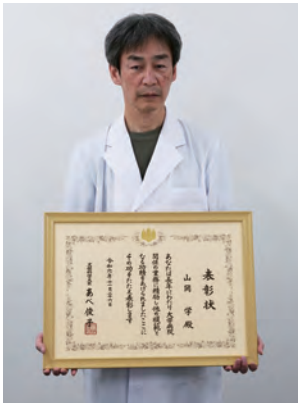
（評価対象領域）
第1領域　患者中心の医療の推進
第2領域　良質な医療の実践1
第3領域　良質な医療の実践2
第4領域　理念達成に向けた組織運営



附属病院輸血・細胞療法部 山岡技師長、医療安全管理部 川瀬科長が文部科学大臣表彰を受賞

令和6年度医学教育等関係業務功労者に附属病院輸血・細胞療法部山岡学技師長と同医療安全管理部川瀬泰裕科長が選ばれ、文部科学大臣表彰を受けました。

同省では、国立、公立および私立の大学における医学・歯学に関する教育研究または患者診療などに係る業務に関し、顕著な功労のあった者を讃えることで、関係職員の士気を高揚し、もって医学または歯学教育の充実向上を図ることを目的として大臣表彰を行っています。今回の2名は長年の勤労や後進の育成に寄与した功績が認められ、表彰を受けるに至りました。



山岡 学　技師長



川瀬 泰裕　科長

05 教育・人材育成（大学院・専門教育）

奨学金（学部・大学院）

医療従事者、研究者を目指す夢を、費用の面からも支援するため、
学部、 大学院において各種奨学金の制度を設けています。

医工学センター開設

10月1日付で医工学とトランスレーショナル・メディシンという、医学の2大領域を融合した医工学センターが開設されました。分野横断的に学内外の研究者、欧米の有名大学や研究機関と国際的な共同研究を行い、広く産業界と連携して社会実装を進める拠点を目指しています。センター長にはジュセッペ・ペッツォッティ学長特命教授が就任。

センターにはラマンイメージングや診断のための最先端の分光装置を備え、機械学習や人工知能と組み合わせることで、すでに医学・医療で多くの貢献ができることが実証されつつあります。また、このセンターは、アルツハイマー病やパーキンソン病の早期診断や心身両面の健康障害に対するリハビリテーションに役立つ研究も行う予定です。

今後さらに、ロボティックスや新規医療素材の応用を含めた様々な領域で医工連携が広がるように橋渡しに尽力し、革新的で国際性の高い新たな研究ブランドの確立、知的財産を活用した企業連携によって社会実装を進めます。

令和6年度第1回・第2回大学院企画セミナー

本学大学院医学研究科では、各分野の第一人者を招き、本学大学院生・教職員・学部学生および学内外の関係者を対象に行う特別講義「大学院企画セミナー」を実施しています。

令和6年度は以下の2回を開催しました。両日とも講演後の質疑応答では多くの質問が寄せられ、セミナーは盛り上がりを見せました。


長田 重一　教授


米満 吉和　教授

第1回 10月4日（金）
講　師：大阪大学免疫学フロンティア研究センター
　　特任教授 長田 重一
テーマ：「細胞膜の非対称性:その維持と崩壊」

第2回 10月10日（木）
講　師：九州大学大学院薬学研究院
　　革新的バイオ医薬創成学
　　教授 米満 吉和
テーマ：「我々が発見した高い抗腫瘍活性を持つ
　　GAIA-102の臨床開発:
　　患者さんが教えてくれること」

05 教育・人材育成（大学院・専門教育）

第8期関医・看護師リカレントスクール開講

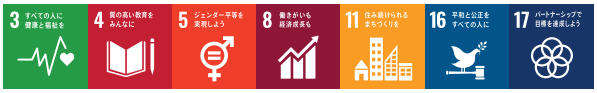




10月から12月まで、第8期関医・看護師リカレントスクールが開講されました。同10月2日（水）10時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において挙行された入校式には、受講する10名が臨みました。
リカレントスクールでは、離職中の看護師の復職への不安を軽減し、仲間と共に職場復帰を目指すプログラムを用意しています。

およそ2カ月の開講期間では、リモートでの講義や、シミュレーションセンターでの最新の機器を使った演習、附属4病院の訪問看護ステーションでの実習など、看護師への復職を支援するためのプログラムが実施されました。

関医・看護師リカレントスクール修了生の集い開催



6月29日（土）10時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、関医・看護師リカレントスクール修了生の集いが開催されました。2回目となった今回は、17名が参加。

交流会では自身の近況報告に加えて復職のハードルを乗り越えた数々の体験が述べられ、お互いを激励する様子が見られ、同期生のみならず、修了生全体で交流が深まる催しとなりました。

05 教育・人材育成（大学院・専門教育）

看護学部冬期インターンシップ



12月9日（月）～12月26日（木）まで、附属病院・総合医療センター・香里病院において看護学部生冬期インターンシップが実施され、本学看護学部3年次の学生67名が参加しました。これは、就業環境での看護師業務の体験を通じて自身の適性を把握し、業務への理解を深めることを目的とするものです。

学生らは各病棟で先輩看護師に付き添われながら看護処置、看護ケア、搬送などを体験。疑問に思ったことを先輩看護師に確認したり、教わったことや気づいたことをメモにとったりする様子が見られ、参加した学生にとって貴重な一日となったようでした。



「看護学教育評価」適合と認定



関西医科大学は、令和7年3月31日付で、本学の看護学教育プログラムが一般財団法人日本看護学教育評価機構の基準に適合していると認定されました。

Japan Accreditation Board for Nursing Education
適合
JABNE
Accredited
2025.4 - 2032.3
日本看護学教育評価機構



Japan Accreditation Board for Nursing Education
適合
JABNE
Accredited
2025.4 - 2032.3
日本看護学教育評価機構

看護学教育評価適合認定証

関西医科大学 看護学部看護学科 殿

貴学の看護学教育プログラムは、本機構の基準に適合していることを認定する

認定期間 自 2025 年 4 月 1 日
至 2032 年 3 月 31 日

2025 年 3 月 31 日

一般財団法人日本看護学教育評価機構
代表理事 姜沼 典子

06 子ども・次世代育成

夏休み子ども企画「関西医科大学で遊びを体験」



8月25日（日）（午前の部9時30分から、午後の部13時から）に牧野キャンパスリハビリテーション学部棟において地域の子ども向け企画「関西医科大学で遊びを体験」が開催されました。

このイベントは、地域の中で全ての子どもが健やかに成長していける社会を目指し、地域に貢献できる取り組みとして作業療法学科の教員らが企画したものです。第3回目となる今回は6家族から児童9人、ご家族10人が参加。教員らとボランティアの学生スタッフがサポートする中で、子どもたちは、トランポリンやボールプール、室内に設けられたブランコ、滑り台など様々な遊具に挑戦し、心身の発達に欠かせない遊びを思い切り体験しました。



医学部「子ども大学探検隊」実施



12月7日（土）10時から、枚方キャンパス医学部棟において「今の医療にふれる体験学習～見て・触れて・健康について考えよう～」をテーマに「子ども大学探検隊」が実施され、枚方市内在住および在校の小学生ら19名が参加しました。

参加者は「血管造影・血管内治療」「カテーテル挿入」「エコー」のシミュレータを体験したほか、放射線を可視化できる「霧箱」や、人体の断面を見ることができる模型を用いた実演講演の中で可視化された放射線を真剣に見つめたり、断面の説明を聞いたりして熱心に取り組んでいました。



06 子ども・次世代育成

附属病院
沖縄美ら海水族館遠隔授業開催



7月3日（水）13時30分から附属病院5階こども病棟カンファレンスルームにおいて、小児患者さんの支援の一環となる附属病院がんセンターAYA世代支援チームの主催の「沖縄美ら海水族館遠隔授業」が開催されました。

これは沖縄美ら海水族館とオンラインで中継を繋ぎ、こども病棟入院中の患者さん6名が参加。今回のテーマは「ウミガメクイズ&かわいい赤ちゃんウミガメとご対面!」が選ばれました。可愛らしいウミガメの赤ちゃんの姿がスクリーンに映し出されると、こどもたちから歓声が上がり、飼育員によるウミガメの生態解説やクイズが行われ大いに盛り上がりました。



総合医療センター第18回滝井セミナー
「～子どもを理解するために～」開催



8月1日（木）、2日（金）両日ともに10時から総合医療センター南館2階臨床講堂において、オンデマンド配信形式とあわせ滝井セミナーが開催され約600名が参加しました。

これは、起立性調節障害や発達障害などの小児心身症の子どもたちへの理解を深め、将来を見据えた支援につなげていくことを目的に、大阪府立刀根山支援学校と協力して教育関係者を対象に行っているもので、今回が18回目の開催となります。



06 子ども・次世代育成

小児がん患者向けメタバースアプリ開発 クラウドファンディング実施記者会見実施

医学部小児科学講座大町太一講師が、小児がん患者と家族が安心してつながり続けられる仮想空間（メタバース）の専用アプリ「Emo-Link」の開発のため、READYFOR株式会社が展開するサービスを利用して広く寄付を募るためクラウドファンディングを実施しました。2月28日（金）11時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、クラウドファンディングの実施目的や概要を説明する記者会見が行われました。

小児がん患者さんやそのご家族は、悩みや不安を抱えて当事者同士の交流を必要としています。しかし小児がんは希少疾患であり当事者同士が出会う機会自体が少なく、交流の役割を担ってきた患者会には時間や空間などの面で多くの制約があります。これを解決する手段の一つとして、いつでもどこからでも患者さんとそのご家族、そして医療従事者らが安心してつながり続けられるアプリの開発を目指し、クラウドファンディングの実施決定に至りました。



附属病院・総合医療センター がん教育講演会開催

附属病院・総合医療センターでは、大阪府が進める学校教育でのがん啓発活動の一環として、がんに関する知見の社会還元を目的としたがん教育講演会を行っています。

6月12日（水）14時30分から門真市内の中学校において、総合医療センター看護部大橋理紗看護師（がん看護専門看護師）による生徒約300人を対象としたがんについての出張講演が行われました。講演では、現在の日本におけるがんの状況・要因や緩和ケアなどについてわかりやすく解説。

また、1月29日（水）14時25分から寝屋川市内の中学校において、附属病院緩和ケアセンター小西知子看護師（がん看護専門看護師）が全校生徒約350人を対象にがんについての出張授業を行いました。講演に聞き入る生徒たちの姿が見られるなど、がん教育の充実が図られる良い機会となりました。



07 医療体験・キャリア教育

附属病院「1日看護師体験」開催



7月26日（金）9時から附属病院において、高校生を対象に「1日看護師体験」が開催されました。これは看護に対する理解を深めるとともに、看護の明るいイメージづくりを図り、将来の進路選択の参考としてもらうために行われている大阪府の事業で、この日は枚方市内2校の高校2年生31名が参加しました。

参加者は2名ずつに分かれ、配属先の各部署で、ベッドメイキングや患者搬送、カンファレンスなどを体験。体験終了後のまとめの会では、わかりやすい説明、集中して実施する点滴や処置と、患者さんを笑顔にさせる声かけなど看護を身近に感じたようで、「看護師を目指す思いが強まった」「とても素敵な職業だと思った」などの感想が聞かれました。



総合医療センター「ふれあい看護体験」・「1日看護師体験」開催



7月24日（水）、26日（金）、30日（火）の3日間、「ふれあい看護体験」が開催されました。これは大阪府看護協会の企画により、総合医療センターで実施されたもので、看護職を目指す人が施設見学や看護体験をすることにより、看護職やその他の仕事を知るためのイベントです。参加者らは各日、オリエンテーションの後に病棟で看護体験を行い、体験終了後に若手看護師との交流の場を持ちました。3日間で22名の参加がありました。

また、8月6日（火）、20日（火）には「1日看護師体験」が開催されました。これは看護に対する理解を深めるとともに、看護の明るいイメージづくりを図り、将来の進路選択の参考としてもらうために行っている大阪府の事業で、2日間で14名の高校生が参加しました。

08 市民向け健康啓発・公開講座

附属病院市民公開講座開催（2回）



9月21日（土）
テーマ「もっと知ってほしい認知症のこと」

松田公志病院長の挨拶後、一部では脳神経内科薬師寺祐介教授が「認知症の最新治療」のテーマで認知症のメカニズムや新薬の治療方法などを講演。

続く二部では認知症の予防や対応を取り上げ、植留美認知症看護認定看護師による「認知症の予防と共生」、木村明子医療ソーシャルワーカーによる「認知症を支える社会資源」、渡邉友季子管理栄養士による「認知症と食事」、實廣祐理学療法士による「認知症の予防における運動の効果」の4題が講演されました。

当日はメイン会場に加えて中継会場も開放するなど多数の参加があり、講演に対して関心の高さが感じられました。

2月1日（土）
テーマ「自分でできる!痛みと不眠のケア」
「考えてみようココロの病」

市民公開講座委員会蓮尾英明委員長（心療内科診療部長）が開会挨拶に続いて「自分でできる!痛みと不眠のケア」と題した講演を実施。次に精神神経科嶽北佳輝診療科長が「考えてみようココロの病」と題した講演を実施しました。各演題後の質疑応答時には、参加者から健康管理や家族への接し方、最新の治療・研究に関する疑問などが多数寄せられました。



附属病院アレルギーセンター府民公開講座開催



3月1日（土）14時30分から、附属病院13階講堂において関西医科大学附属病院アレルギーセンター府民公開講座が開催され、市民ら31名が参加しました。

附属病院アレルギーセンター小林良樹センター長の司会の下、同赤川翔平副センター長による「食べて治す!こどもの食物アレルギー」、附属病院皮膚科岸本泉講師による「塗って治す!小児期からのアトピー性皮膚炎」がそれぞれ講演されました。また、外部講師による「災害発生!アレルギー・アトピーがあると困ること」も講演され、講演終了後はアレルギーセンタースタッフによる個別相談・質問コーナーが設けられました。病を予防・管理する理由と方法などが解説され、講演終了後には活発な質疑応答が行われました。



08 市民向け健康啓発・公開講座

総合医療センター
第25回・26回市民健康講座開催



10月5日（土）14時から、鶴見区民センター（大阪市鶴見区）において第25回市民健康講座が開催されました。金田浩由紀副病院長、菅俊光副病院長が座長を務め、心臓血管病センター成子隆彦センター長の「狭心症・心筋梗塞について～ならないためになってしまったら～」、下部消化管外科福長洋介部長の「増えている大腸がん～からだに優しくがんを治す術（すべ）～」、整形外科松矢浩暉部長の「足のつけ根や膝の痛みでお困りの方へ～股／膝痛の原因と対処・治療法について～」の3題が講演され、180名が来場しました。

また、3月1日（土）14時からは、守口文化センターエナジーホール（守口市）において第26回市民健康講座が開催されました。杉浦哲朗病院長による開会挨拶の後、菅俊光副病院長が座長を務め、精神神経科加藤正樹部長・主任教授の「健康に働くためのメンタルヘルス入門～うつ病と不眠症～」、心臓血管病センター成子隆彦センター長の「狭心症・心筋梗塞から守る!～ならないためになってしまったら～」、下部消化管外科三城弥範診療講師の「増えている大腸がん～からだに優しくがんを治す術～」の3題が講演され、256名が来場しました。



総合医療センター
糖尿病デーフェスタ2024開催



11月16日（土）14時から総合医療センター本館1階において、「世界糖尿病デーフェスタ2024糖尿病と災害災害時に必要なものってなんだろう? ～備えあれば憂いなし～」が開催され、患者さんやそのご家族など22名が来場しました。内分泌代謝内科池田彩美病院助教による「糖尿病と災害」と題した講演、健康科学センター後藤さやか健康運動指導士による運動実演が行われました。

そのほかにもインスリン体験、血糖測定、医師相談、災害グッズ展示などのコーナーが設けられ、熱心に説明を聞いたり体験に取り組んだりする参加者の姿が見られました。



08 市民向け健康啓発・公開講座

総合医療センターミニ市民健康講座開催

1月23日（木）15時から、UR新豊里団地第1集会所（大阪市東淀川区）においてミニ市民健康講座が開催されました。これは地域住民の方に疾患やその予防について知識を深めていただくことを意図したもので、少人数制のため気軽な質問が可能な参加型のイベントです。東淀川区で初めての開催となった今回は、循環器内科太田垣宗光助教が「心疾患にならないための予防医学について」と題して心臓の役割や心疾患の概要、予防方法を講演。

その後、地域医療連携部による総合医療センターの紹介と看護師による健康相談会が行われました。当日は20名の参加があり、心疾患に関する疑問を医師や看護師に熱心に質問する姿が見られました。

香里病院市民公開講座開催（2回）

5月18日（土）13時50分から、アルカスホール（寝屋川市立地域交流センター）（寝屋川市）において春の市民公開講座が開催されました。この日は「がんとの生き方」をテーマに4つの講演が行われました。岡崎和一病院長の挨拶の後、外科吉田良部長が「高齢者疾患の手術治療」を講演。続いて乳腺センター綿谷正弘センター長が「今日から実践ー乳房を意識した生活」を、腎泌尿器外科島田誠治医長が「前立腺がんのお話～診断から治療まで～」を、最後に関医デイケアセンター・香里久保田良理学療法士が「がんと運動」を講演し、盛況のうちに閉会しました。

また、10月5日（土）14時から、アルカスホール（寝屋川市立地域交流センター）（寝屋川市）メインホールにおいて、「アレルギー・免疫のはなし」をテーマに市民公開講座が開催されました。岡崎和一病院長の挨拶後、アレルギーセンター濱田聡子センター長（耳鼻咽喉科部長）の「アレルギー性鼻炎のはなしー重症化させない最新治療ー」、皮膚科中谷佳保里医長の「アトピー性皮膚炎について」、総合診療科石丸裕康部長の「知っていますか?リウマチ・膠原病の症状と治療について」、内科延山誠一部長の「咳と喘息のはなし」の4題が講演されました。また看護部辻佐世里副部長と関医訪問看護ステーション・香里の長濱かおり師長による健康相談ブースへも、参加者が足を止め熱心に相談する様子が見られました。



ひらかた市民大学開催

このイベントは、本学も参画する学園都市ひらかた推進協議会および枚方産学公連携プラットフォームの事業として毎年開催されているもので、枚方市内の大学の専門的な知識・情報を学習できる講座を市民の皆さんに提供しています。

今年は、医学部眼科学講座今井尚徳教授の「加齢と眼疾患について」、同内科学第二講座入江潤一郎診療教授の「糖尿病を正しく知り、予防と治療の工夫をしよう―チームで取り組む糖尿病治療―」の2つの講演を実施。加齢による発症が多い眼疾患の症状や治療方法、糖尿病を予防・管理する理由と方法などが解説され、講演終了後には活発な質疑応答が行われました。



今井 尚徳　教授



入江 潤一郎　教授

09 がん医療・検診

附属病院国際がん新薬開発センター・新薬開発科開設

11月1日付で国際がん新薬開発センターおよび新薬開発科が開設されました。大学病院では国内初のがん新薬開発に特化した治験治療センターおよび診療科で、西日本におけるがん新薬開発の一拠点として日本の抗がん剤開発の出発点となるがん新規薬剤開発を行います。本邦におけるがん医療においては近年、欧米に比して新薬のドラッグロス・ドラッグラグ等の早急に解決すべき諸問題への対処が喫緊の課題となっています。海外でしか開発されていないがん新薬を本学附属病院においていち早く患者さんに一つでも多くの治療オプションとして届ける体制を整え、がん新薬への革新的アクセス向上を目指しています。

新薬開発科は、附属病院の各診療科・各部門のみならず国内・海外の大学病院やがんセンターなどのがん新薬開発機関および製薬企業とともに共同・相互連携しながら、日本の抗がん剤早期開発をグローバルレベルで推進します。

香里病院日曜乳がん検診（ピンクリボン）実施

10月20日（日）9時から13時まで乳腺センターにおいて、日曜乳がん検診が実施されました。

これは、認定NPO法人J.POSHが、子育て・介護・仕事・家事などで多忙な平日を過ごす女性が日曜日に乳がん検診を受けられるようにとの意図で取り組む「J.M.S®:ジャパン・マンモグラフィー・サンデー（毎年10月第3日曜日に乳がん検診マンモグラフィー検査を受診できる環境づくり）」に賛同し、香里病院で平成23年から実施しているものです。当日は寝屋川市民他23名が受診しました。



くずは駅中健康・健診センター 健診・ドックリニューアル

1月から、これまでの標準的な人間ドック健診に加えて、時代のニーズに応えた先進的な検診メニューが追加されました。

【次世代がん総合健診】

尿中のマイクロRNAを解析、早期がんから高精度に判定できるリキッドバイオプシー検査を追加しました。

10種（肺、食道、胃、大腸、膵臓、腎臓、膀胱、前立腺、卵巣、乳腺）のがん罹患リスクを判定。旧来の非侵襲的検査と組み合わせて、身体的負担が少なく、より高精度ながん検診が可能になりました。

【脳総合ドック】

脳血管障害や、脳腫瘍の早期発見の為に実施してきた脳MRI/MRA検査に加えて、軽度認知障害（MCI）発見のための認知機能検査を追加しました。

10 医療の質・安全向上

第21回医療安全大会開催

本学の各附属医療機関における医療安全に関する取り組みを共有し、医療安全意識の向上を図ることを目的に、令和6年度よりオンデマンド形式にて医療安全大会を公開しました。

期　間：令和6年12月17日（火）～令和7年3月31日（月）
テーマ：「栄養管理と医療安全」
1）「管理栄養士の病棟配置」附属病院栄養管理部　主任 金谷 節子
2）「医療安全×NST『入院時早期栄養管理』整形外科手術患者における栄養管理の必要性
～GLIM基準の活用の実際～」くずは病院医療安全管理部　部長 小林 史朋

医療ニーズ発表会開催



11月27日（水）17時から、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、今年で7回目となる「医療ニーズ発表会」がハイブリッド方式で開催されました。

これは学内教職員から募った医療ニーズを、その新しさ・技術の難易度・商品性等の観点から選抜し全国の製販企業に向けて発信するもので、これまでこの会での発表を契機に多くの医療製品が製品化されてきました。冒頭の齋藤貴徳産学連携・知的財産・社会貢献担当副学長（医学部整形外科学講座教授）の挨拶に続き、産学知財統括室佐々木健一URA・産学連携コーディネータが本発表会の趣旨や本学の概要を説明。その後は応募された医療ニーズの中から、選抜された22件について発表が行われました。

第8回学術祭開催



12月7日（土）、8日（日）、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、「第8回学術祭」が開催されました。

これは、本学における学術研究の更なる発展を目的としたもので、今年で8回目の開催となりました。初日は木梨達雄学長による開会の辞で幕を開け、両日とも多くの参加者が訪れました。

附属病院Newsweek誌「World's Best Specialized Hospitals 2025」に整形外科分野でランクイン

9月17日（火）、国際ニュース週刊誌「Newsweek」社とStatista社が共同で調査を行い決定した「World's Best Specialized Hospitals 2025」のランキングにおいて、本学附属病院が「整形外科（Orthopedics）分野」で144位にランクイン。

大阪大学医学部附属病院・東京大学医学部附属病院・大阪市立大学医学部附属病院（現大阪公立大学医学部附属病院）・京都大学医学部附属病院に次ぐ5位、国内の私立大学病院で唯一のランクインとなりました。

11 女性医師支援・ジェンダー平等

医師キャリア支援のための交流会開催



7月5日（金）17時から、枚方キャンパス医学部棟3階学生食堂において、第2回医師キャリア支援のための交流会が開催されました。オール女性医師キャリアセンター主催の、医師のキャリアパスやワークライフバランスについて考えることを目的としたイベントで、学生や医師、大学関係者30名が参加しました。

今回は小児科学講座赤川翔平講師のもと、「カップルドクターのおしごと事情」をテーマに、ともに医師として働く2組の夫婦が登壇。医師としてのキャリアプランの考え方や、多忙な日々を乗り切るための家事や育児の工夫、夫婦ともに医師として働くことのメリットなどについて、語りました。

その後の質疑応答では参加した学生や研修医から、様々な質問が寄せられました。



子育て医師キャリア支援講演会開催



2月26日（水）16時30分から、本学教職員、学生を対象に「仕事と育児両立のコツ～知らなきゃ損する優遇制度活用術～」と題した講演会がオンラインで開催されました。今年度採択された厚生労働省「令和6年度子育て世代の医療職 支援事業」の一環としての取組みで、講演では同事業に係る新規支援内容や実際に利用した支援制度の紹介、人事部からの育児・介護休業法の改正に関する説明がありました。

マタニティウェア レンタルサービス開始



オール女性医師キャリアセンターでは、産前休暇を取得するまでの期間、快適に業務に携わることができるよう、妊娠中の女性医師に無料でマタニティウェアをレンタルするサービスを7月から開始しました。



11 女性医師支援・ジェンダー平等

女性医師奨励賞 受賞者による講義実施



11月7日（木）12時50分から医学部1学年を対象とした「医療プロフェッショナリズムの実践A1」において女性医師奨励賞受賞者2名の講義が行われました。女性医師奨励賞は、本学に勤務する女性医師を対象に、教育、研究または診療の分野において、業績が極めて顕著である方を表彰するものです。受賞者による講義は今回が初めてで、女性のみならず男性も含め学生のうちから医師としてのキャリアプランを描くことができるようにとの趣旨で実施されました。

オール女性医師キャリアセンター運営委員である医学部放射線科学講座河野由美子講師の総論講義に続き、受賞者である同小児科学講座田邉裕子診療講師と同上部消化管外科学講座向出裕美診療講師がそれぞれ自身のキャリアを振り返りながら女性医師のキャリアに関する講義を実施。聴講した学生から質問が寄せられるなど関心の高さがうかがえました。



第4回女性医師奨励賞（アプリコット賞）及び 第2回女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）表彰式



3月14日（金）17時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、第4回女性医師奨励賞（アプリコット賞）及び第2回女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）表彰式が行われました。

女性医師奨励賞は、本学に勤務する女性医師を対象に、教育・研究・診療の分野において、業績が極めて顕著である者を表彰するもので、女性医師のモチベーションの維持と向上を図り、さらなる活躍を支援することを目的としています。また女性医師活躍推進賞は、本学における女性医師の活躍推進に取り組む講座等の団体による活動内容を顕彰することにより、女性医師が安心して働くことができ、医師としてのキャリアを継続できる職場環境整備の普及啓発を図り、継続的な活動を支援するために創設されたものです。



12 環境配慮

令和6年度業務改善コンテスト開催



本学では、「業務改善コンテスト」を実施し、全学的な業務改善を通じて経営基盤の強化や社会的評価の向上、職員同士の切磋琢磨による組織活性化を図っています。

コンテストでは、各部門がチームを結成して現状分析や改善施策の実施・効果測定を行い応募。選抜されたチームは発表会で成果をプレゼンし、審査により入賞チームを決定・表彰します。

4月23日（火）16時から附属病院13階合同カンファレンスにおいて、附属病院業務改善コンテストの入賞チームへの表彰が行われました。また、6月13日（木）14時からは、枚方キャンパス加多乃講堂において、法人・大学部門の最終審査発表会が行われ、選抜された7チームによる最終プレゼン、入賞チームへの表彰が行われました。

保管文書の効率的な整理・管理に関する応募などが入賞し、本学の発展につながる取組みがみられました。




関西医科大学
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY